

令和7年度 南砺市防災会議 会議録

開催日： 令和8年2月18日（水）

会 場： 南砺市防災センター 防災ホール

議 題：

南砺市防災会議

- (1) 南砺市地域防災計画の改定案について
- (2) 南砺市国土強靱化地域計画の改定案について

1. 開会

2. 会長あいさつ

【会長】

皆さん、寒い中お集まりいただきありがとうございます。現在イタリアでオリンピックが開催されており、メダルの話題で持ちきりですが、南砺市としても2月28日から3月1日にかけて「ワールドカップ モーグル大会」がたいらスキー場で開催されます。世界中から注目される中、インバウンドも含めたくさんの方が来られる中で、災害が起きたらどうするかという視点は非常に重要です。昨年の令和6年能登半島地震では、富山県内でも大きな被害があり、今なお不自由な生活をされている方がおられます。南砺市でもお宮の崩壊や田畑の地滑りなどがありました。今朝も武田団長から、河川の土砂流出による天然ダム化の懸念について報告を受けたところです。

「想定外」という言葉が使えないほど甚大な災害が続く中、避難情報の的確な伝達や住民へのハザードマップ周知など、課題は山積しています。本日は、県の災害対応検証を踏まえた「地域防災計画」の見直しや、職員の配備基準、避難所の環境改善、デジタル技術の活用、地区防災計画の策定推進などについて議論したいと思います。「誰一人取り残さない防災」のため、オール南砺で取り組む決意です。忌憚のないご意見をお願いします。

3. 審議事項

(1) 南砺市地域防災計画の改定案について

(説明) 省略

(質疑)

【委員】

震災編の資料について伺います。南砺市は海がないので津波の記載はありませんが、市民から「大きな地震が来たらすぐに学校や交流センターに逃げ込む、鍵が開いていないなら蹴破ってでも入る」という声を聞くことがあります。しかし、実際には施設の安全確認や受け

入れ態勢が整ってから開けるべきです。鍵の暗証番号を知っている人が勝手に開けるのも混乱を招きます。

「避難所は準備ができたところから順次開設する」というフローを、市民に明確に伝えておく必要があります。能登の時も「なぜ開いていないんだ」という不満が出たと聞きますが、まずは「自分の命は自分で守る」意識を持ってもらい、公的避難所への過度な期待や誤解を解くような周知を徹底してほしい。

【事務局】

今回の計画改定には文言として盛り込んでいませんが、実際の避難所運営マニュアル等では「準備ができ次第開設」としています。ただ、仰る通り、市民の方には「いつでも誰でも蹴破って入っていい」という誤解を与えないよう、フローチャート等を用いて丁寧に周知していく必要があると認識しています。

(質疑2)

【委員】

もう一点、資料にある「手押しポンプの設置」について。公的な避難所に井戸があるケースは稀だと思います。むしろ集落内の個人宅にある井戸を「井戸水マップ」として把握し、停電時でも使えるよう小型発電機を持ち込むなどの連携を考える方が現実的ではないでしょうか。

【会長】

公共施設への手押しポンプ設置は県の計画に合わせたものですが、市役所庁舎横の井戸のように一部で進めています。

【事務局】

補足します。まずは避難所となる小中学校の井戸を調査し、新年度予算の中で防災井戸としての整備を検討しています。集落内の個人井戸の活用についても、自主防災組織と連携して進めていきたいと考えています。

【委員】

消防団としても、断水時の水確保は死活問題です。手押しポンプの有効性は能登でも確認されています。設置場所の選定などは地域の実情に合わせて進めていただきたい。

(質疑3)

【委員】

遺体安置所の指定について。東日本大震災の際、安置所、検視場所、行方不明者窓口を一体化して運営することの重要性を痛感しました。南砺市でも、多数の遺体が出た場合に備え、一定の規模がある場所を一体的に運用できるよう検討をお願いします。

【会長】

ありがとうございます。場所の確保については、災害ゴミの仮置き場などと同様に、

広い敷地での一体的な運用を検討課題とします。

4. 報告事項

(1) 南砺市国土強靱化地域計画の改定案について

(説明) 省略

質疑無し

5. 閉会

【事務局】

皆様、長時間にわたりありがとうございました。能登半島地震の教訓、そして本日の委員の皆様からのアドバイスをしっかりと計画に落とし込み、実効性のある防災体制を築いていきましょう。以上をもちまして、令和7年度南砺市防災会議を閉会いたします。